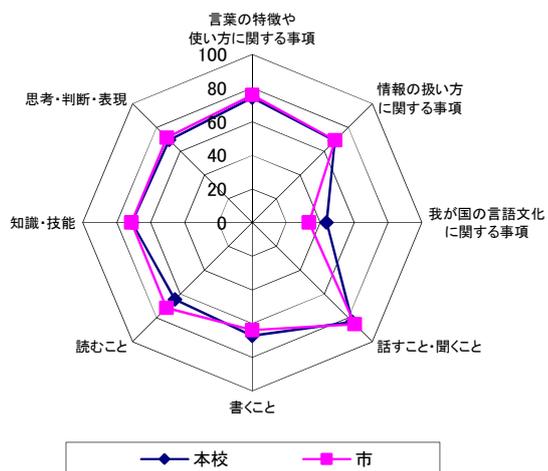


# 宇都宮市立清原南小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

|     |                 | 本年度  |      |      |
|-----|-----------------|------|------|------|
|     |                 | 本校   | 市    | 参考値  |
| 領域別 | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 74.3 | 75.8 | 77.5 |
|     | 情報の扱い方に関する事項    | 68.8 | 69.1 | 67.0 |
|     | 我が国の言語文化に関する事項  | 43.8 | 33.5 | 37.2 |
|     | 話すこと・聞くこと       | 83.3 | 85.5 | 86.5 |
|     | 書くこと            | 67.2 | 63.9 | 65.8 |
|     | 読むこと            | 64.6 | 71.6 | 69.5 |
| 観点別 | 知識・技能           | 71.0 | 71.3 | 72.9 |
|     | 思考・判断・表現        | 69.4 | 71.3 | 71.4 |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

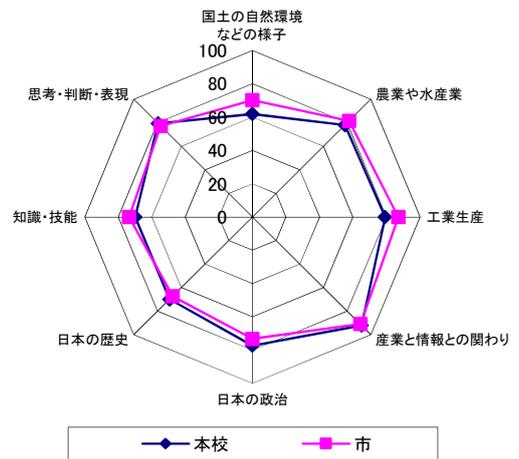
| 領域              | 本年度の状況   | 今後の指導の重点  |
|-----------------|--|---|
| 言葉の特徴や使い方に関する事項 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は74.3%で、市の平均正答率より1.5ポイント下回っている。</li> <li>●漢字の読み書きについては、市の平均とほぼ同じであるが、既習の漢字の正答率が低いことから、定着が不十分であると考えられる。</li> </ul>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎基本の定着のため、確認テストの実施やAIDリルの有効活用を進め、練習を繰り返して習熟を図る。</li> <li>○国語の授業だけでなく、日常的に漢字を使うように指導するとともに、文脈に合う適切な漢字を読んだり書いたりすることができるようにする。</li> <li>○日常生活の中で敬語を使うなど、時と場に応じた適切な言葉遣いを身に付けさせていくようにする。</li> <li>○漢字の学習の際に、音訓読みや熟語を意識して指導するようにする。</li> </ul> |
| 情報の扱い方に関する事項    | <ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は68.8%と市の平均正答率より0.3ポイント下回っている。</li> <li>●話や文章に含まれている、原因と結果の関係などの情報と情報を捉えて理解することに課題が見られる。</li> </ul>                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>○説明文を読んで要旨を捉え、得られた情報を様々な角度から見られるように整理する活動を取り入れる。また、読み取りの際に、原因と結果などの関係に着目して、情報を正しく読み取る力も高めていく。</li> <li>○一人一台端末や図書資料・新聞等を活用して情報を収集・整理して、分かりやすくまとめる活動を通して、自分の考えを伝える力を高めていく。</li> </ul>   |
| 我が国の言語文化に関する事項  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○平均正答率は43.8%と市の平均正答率より10.3ポイント上回っている。</li> <li>●市の平均正答率は上回っているが、和語・漢語についての理解は十分とは言えない。</li> </ul>                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>○国語辞典や漢字辞典などを活用し、語彙・語句、語源に興味をもたせるように指導する。</li> <li>○国語の授業だけでなく、生活経験と結び付け、伝統的な言語文化に触れる機会を設けるなどして理解を深めるようにする。</li> </ul>   |
| 話すこと・聞くこと       | <ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は83.3%と市の平均正答率より2.2ポイント下回っている。</li> <li>●自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることに課題が見られる。</li> </ul>                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○内容を整理して聞く力や、聞いたことを基に質問を工夫しながら話す力を高められるようなやりとりの場を意図的に設ける。</li> <li>○役割や立場を明確にし、インタビューするときの目的や意図に応じた聞き方のポイントを具体的に示す。</li> </ul>   |
| 書くこと            | <ul style="list-style-type: none"> <li>○平均正答率は67.2%と市の平均正答率より3.3ポイント上回っている。</li> <li>○自分の意見とその理由を明確にして文章を書くことができています。</li> <li>●目的に応じて、要約して文章を書くことに課題が見られる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○毎日日記を書く活動によって、昨年度よりも文章を書く力が身に付いてきている。</li> <li>○目的や意図に応じて自分の感じたことや考えたこと、文字数等の指定に合わせて書くという活動を意図的に設定するなどして、指導していく。</li> <li>○簡単に書いたり詳しく書いたり、事実と感想、意見とを区別して書いたりして、自分の考えが伝わるように書く活動を充実させる。</li> </ul>   |
| 読むこと            | <ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は64.6%と市の平均正答率より7ポイント下回っている。</li> <li>●物語の描写を基に登場人物の心情や様子を捉えることや、説明文の叙述を基に文章の内容を捉えることに課題が見られる。</li> </ul>                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○物語文では、会話文や行動を表す描写に着目させて心情を読み取ったり、登場人物の関係性を捉えられるように指導する。</li> <li>○説明文では、文章全体から、構成や状況を捉えて、正しく読み取る力を身に付けさせるために、根拠となる言葉を見付ける活動を取り入れる。</li> <li>○意見や感想を共有する場を設け、共通点や相違点などを捉えながら自分の考えを広げられるようにする。</li> </ul>                                   |

# 宇都宮市立清原南小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

|     |              | 本年度  |      |      |
|-----|--------------|------|------|------|
|     |              | 本校   | 市    | 参考値  |
| 領域別 | 国土の自然環境などの様子 | 61.9 | 70.3 | 66.4 |
|     | 農業や水産業       | 78.1 | 81.6 | 75.3 |
|     | 工業生産         | 79.2 | 87.0 | 77.7 |
|     | 産業と情報との関わり   | 92.2 | 91.0 | 81.3 |
|     | 日本の政治        | 77.3 | 73.2 | 75.3 |
|     | 日本の歴史        | 69.9 | 67.4 | 68.5 |
| 観点別 | 知識・技能        | 69.9 | 73.5 | 72.5 |
|     | 思考・判断・表現     | 79.5 | 77.3 | 71.5 |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

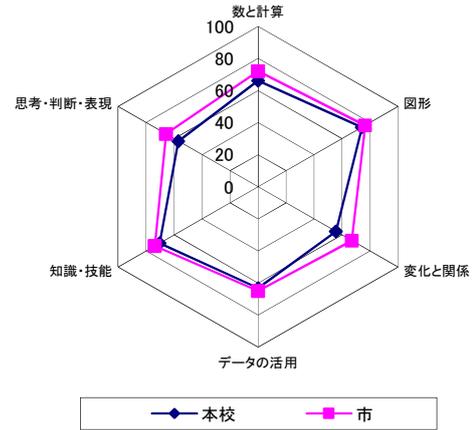
| 領域           | 本年度の状況  | 今後の指導の重点  |
|--------------|---|---|
| 国土の自然環境などの様子 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は61.9%で、市の平均正答率より8.4ポイント下回っている。</li> <li>●赤道や季節風についての問題では、平均正答率が市の平均正答率を下回っていて、理解の定着が不十分である。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</li> <li>・大陸名や海洋名、赤道などの地理的用語を正しく理解できるよう、世界地図や地球儀、一人一台端末などを効果的に活用するとともに、定期的に用語についての復習をするなどして理解の定着を図っていく。</li> <li>・我が国の国土の自然環境や気候の特色について正しく理解できるよう、資料や画像資料等を使い、具体的に捉えられるよう工夫して指導していく。</li> </ul> |
| 農業や水産業       | <ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は78.1%で、市の平均正答率より3.5ポイント下回っている。</li> <li>●米の品種改良や水揚げされた魚の出荷作業についての資料を読み取る問題では、平均正答率が市の平均正答率を下回っていて、日本の食料生産についての理解に課題が見られる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業や漁業に関する資料の読み取りと、日本の食料生産における課題を関連して考察できるよう引き続き指導していく。</li> <li>・日本の食料生産に関する知識を高め、ICT等を活用して地図や資料と関連づけて理解できるようにしていく。</li> <li>・算数や理科などの他教科との横断的な学習を意識しながら、グラフなどの資料を読み取る機会を継続して指導する</li> </ul>                            |
| 工業生産         | <ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は79.2%で、市の平均正答率より7.8ポイント下回っている。</li> <li>●自動車の製造工程や貿易の変化についての問題では、平均正答率が市の平均正答率を下回っていて、日本の工業生産についての理解に課題が見られる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教科書等を活用した動画資料の視聴や読み取りなどから、必要な情報を集め、自動車の組み立て工場の工程や工夫を理解できるようにする。</li> <li>・日本の主な輸入品や輸出品についての基本的な知識を高め、グラフなどの資料と関連付けて考えられるように指導していく。</li> </ul>   |
| 産業と情報との関わり   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○平均正答率は92.2%で、市の平均正答率より1.2ポイント上回っている。</li> <li>○私たちの生活と情報の関わりについては、平均正答率が90%を超えており、よく理解できている。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、デジタルシティズンシップ教育との関連を意識し、インターネットを使用する際の注意点について正しく理解し、効果的に活用できる力を身に付けられるようにする。</li> <li>・情報の活用とわたしたちの生活を関連付けて考えることで、情報を生かした産業についての理解を深めるようにする。</li> </ul>   |
| 日本の政治        | <ul style="list-style-type: none"> <li>○平均正答率は77.3%で、市の平均正答率より4.1ポイント上回っている。</li> <li>○日本国憲法の原則については、よく理解できている。</li> <li>●法律ができるまでの流れについての問題では、平均正答率が市の平均正答率を下回っていて、国会の役割についての理解に課題が見られる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・国会は国民の生活の安定と向上を図るために、法律や予算などを審議したり決定したりしていることについて、資料やメディアの情報を効果的に活用するとともに、自分たちの生活と関連付けて理解できるよう、工夫して指導していく。</li> <li>・税金の使われ方に注目することで、国や地方自治体の仕事の大半が税金でまかなわれていることが捉えられるように、租税教室等を活用し、指導していく。</li> </ul>                  |
| 日本の歴史        | <ul style="list-style-type: none"> <li>○平均正答率は69.9%で、市の平均正答率より2.5ポイント上回っている。</li> <li>●豊臣秀吉の業績の中の刀狩について問う問題では、平均正答率が75.0%で、市の平均正答率より5.9ポイント下回っている。</li> <li>○江戸時代の禁教と鎖国についての問題では、平均正答率が81.3%で、市の平均正答率より15.2ポイント上回っていて、よく理解できている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史上の出来事について整理して理解できるようなワークシートの活用や単元ごとに学習内容を自分でまとめる機会を設けるなどして、主体的な取り組みを取り入れていく。</li> <li>・デジタル教科書等の動画資料や図書資料、一人一台端末などを効果的に活用するなどして、知識の定着を図るようになる。</li> </ul>   |

# 宇都宮市立清原南小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

|     |          | 本年度  |      |      |
|-----|----------|------|------|------|
|     |          | 本校   | 市    | 参考値  |
| 領域別 | 数と計算     | 66.2 | 72.1 | 74.6 |
|     | 図形       | 74.3 | 76.5 | 76.1 |
|     | 変化と関係    | 55.6 | 67.1 | 59.7 |
|     | データの活用   | 63.1 | 65.0 | 64.5 |
| 観点別 | 知識・技能    | 70.4 | 73.8 | 74.7 |
|     | 思考・判断・表現 | 56.9 | 65.8 | 61.9 |
|     |          |      |      |      |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

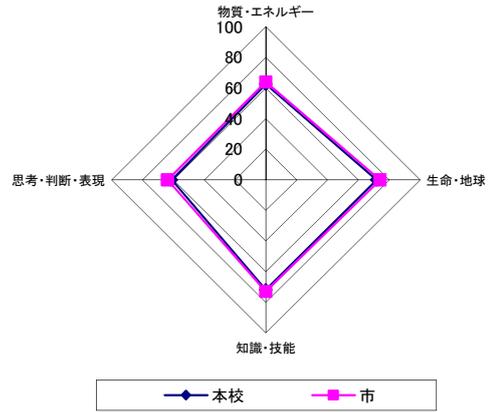
| 領域     | 本年度の状況  | 今後の指導の重点  |
|--------|---|---|
| 数と計算   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は66.2%で、市の平均正答率より5.9ポイント下回っている。</li> <li>○小数の乗法の計算は、平均正答率が87.5%で、市の平均正答率より7.7ポイント上回っている。</li> <li>●小数と分数の乗法と除法の文章問題では、図と計算式を関連させて数量の関係を捉えたり、立式したりすることに課題が見られる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な小数・分数の計算や約分、通分の仕方などが身に付くように、少人数・習熟度別学習や、学習の形態を工夫し今後も指導の充実を図る。</li> <li>・スキルアップタイムを通して、練習問題に繰り返し取り組んだり、個に応じた指導を行ったりして確実な知識の定着を図る。</li> <li>・文章問題では、数直線や図を使って考える活動を積極的に取り入れ、問題の内容を正確に捉えたり、立式したりできるように指導していく。</li> </ul> |
| 図形     | <ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は74.3%で、市の平均正答率より2.2ポイント下回っている。</li> <li>○三角形の3つの角の和を理解し、2つの角の大きさから1つの外角の大きさを求める問題では平均正答率が78.1%で、市の平均正答率より11.5ポイント上回っている。</li> <li>●点対称な図形の、対応する2つの点を結んだ直線の長さを求める問題では、平均正答率が68.8%で市の平均正答率よりも15.1ポイント下回っている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き実物の図形を準備するなど教材の工夫を図ったり、具体物を操作する活動を取り入れたりすることで、図形の性質を捉えられるよう指導する。</li> <li>・線対称や点対称な図形の概念を視覚的に理解できるように、デジタル教科書などのICTを活用する。</li> </ul>  |
| 変化と関係  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は55.6%で、市の平均正答率より11.5ポイント下回っている。</li> <li>●単位量当たりの大きさや割合を求める問題では、市の平均正答率を下回っており、数量の関係を基準に整理して捉える力に課題が見られる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活に関連付けた教材を取り入れることで、児童の興味関心を引き出し意欲的に取り組ませる。</li> <li>・(比較量)÷(基準量)=(割合)などの言葉の式を覚えるだけでなく、数直線や図を描くなどして、数量の関係を捉えることができる活動を多く取り入れる。</li> <li>・問題の場面を想像して条件を整理し、簡単な数値に置き換えて考えるなど数学的な見方・考え方を働かせて、立式につなげられるようにする。</li> </ul>    |
| データの活用 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は63.1%で、市の平均正答率より1.9ポイント下回っている。</li> <li>○ドットプロット図から度数分布表に整理する問題では、平均正答率が93.8%で、市の平均正答率より8.1ポイント上回っている。</li> <li>●様々なデータを分析し、考えの根拠を説明する問題では課題が見られる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科や総合的な学習の時間等の学習と関連付け、日常生活の中で、必要なデータを集め、観点を決めて整理して、目的に応じてグラフや表の特徴や傾向を考察できるような活動を今後も取り入れる。</li> </ul>   |
|        |   |   |
|        |   |   |

# 宇都宮市立清原南小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

|     |          | 本年度  |      |      |
|-----|----------|------|------|------|
|     |          | 本校   | 市    | 参考値  |
| 領域別 | 物質・エネルギー | 62.5 | 63.8 | 61.6 |
|     | 生命・地球    | 71.9 | 74.1 | 73.3 |
| 観点別 | 知識・技能    | 71.9 | 73.0 | 71.3 |
|     | 思考・判断・表現 | 61.1 | 63.8 | 62.5 |
|     |          |      |      |      |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 領域       | 本年度の状況  | 今後の指導の重点  |
|----------|---|---|
| 物質・エネルギー | <ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は62.5%で、市の平均正答率より1.3ポイント下回っている。</li> <li>○浸食についての問題では、平均正答率は75.0%と、市の平均正答率を13.6ポイント上回っている。</li> <li>●実験の方法と結果からふりこの条件を推測する問題では、平均正答率は50.0%と、市の平均正答率を5.1ポイント下回っている。</li> </ul>                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●基礎・基本的な問題や選択式の問題はできており、知識はある程度定着していることがうかがえる。</li> <li>●誤った実験の指摘や、仮説を立てて説明をする問題についての誤答が多かった。日々の学習において、実験から正しい答えを導くだけでなく、間違った実験結果を取り入れるとともに、なぜそうなったかを説明させるなどの活動を取り入れ、様々な実験結果や仮説から考察させることで思考力を伸ばす。</li> <li>●具体物を操作し、試行錯誤しながら学習することで、日常生活に応用がきく、生きた知識の習得を図る。</li> <li>●単元ごとの復習の時間を確保し、プリントでの基礎知識の定着を図る。</li> </ul>                              |
| 生命・地球    | <ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は71.9%で、市の平均正答率より2.2ポイント下回っている。</li> <li>○電灯とボールを使った実験で、ボールが表している月の位置と見え方を問う問題では、平均正答率は96.9%で、市の平均正答率より4.0ポイント上回っている。</li> <li>●食物連鎖についての問題では、平均正答率は62.5%で、市の平均正答率より16.9ポイント下回っている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●児童自身の言葉で予想やまとめができるように、言語活動の時間をしっかりと確保し、論理的な思考力を育てる。全体への発表の機会も設け、実験結果から段階を追ってまとめにつなげていく工夫する。</li> <li>●生物や人体についての基礎的な知識不足が特に見られる。ドリル学習や小テスト等で繰り返し学習することで、語彙や基本的な用語を定着させる。</li> <li>●画像や動画などの視聴覚教材を、ICT機器を積極的に活用することで、授業中では観察しづらい事象の理解を深める。</li> <li>●日常生活と関連付けて考えることで、学習意欲を向上させ、主体的な学びにつなげるために、今後も、体験的な学びを意図的に取り入れ、科学的な思考の定着を図っていく。</li> </ul> |
|          |   |   |
|          |   |   |
|          |   |   |
|          |   |   |

## 宇都宮市立清原南小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組                             | 取組の具体的な内容   | 取組に関わる調査結果   |
|------------------------------------|---|--|
| 自ら学ぶ意欲をもち、粘り強く課題解決の取り組む授業づくり       | 「教育のユニバーサルデザイン」の視点を取り入れ、クラス全員が授業に参加し、理解できるような指導の工夫を行い、全ての児童が学びやすい学習環境づくりを行っている。 | 「勉強が好きですか。」の肯定割合は、奇数学年では市の平均を上回り、偶数学年では市の平均を下回っている。市の平均を下回った学年では、「勉強しているいろいろなことが分かったり、できるようになったりすることはうれしい。」の肯定割合も市の平均を下回っている。また、「学習に対して、自分から進んで勉強している。」の肯定割合は、全学年で市の平均を下回っている。 |
| 児童同士の協働的な学び合いと教師のコーディネート力を生かした授業展開 | 児童の興味・関心・意欲を高め、進んで追究したくなるような課題の工夫や、教科の見方・考え方を広げたり、思考をつないだりする授業の実践を行っている。        | 「学校の授業がどの程度分かりますか。」の肯定割合は、市の平均を下回っている学年もあるが、全ての学年で肯定割合が90%を超えている。また、「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している。」の肯定割合は、ほぼすべての学年で市の平均を上回っている。   |

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・市の調査結果から、「授業が分かる」の肯定割合は、全ての学年で肯定割合が90%を超えていて、「勉強が好き」の肯定割合が市の平均を下回った学年も、昨年度の肯定割合と比べてみると、数値が高くなっている傾向が見られた。また、国・県・市の調査結果に共通して、課題解決に向けて自ら意欲に学ぶ意欲が低い傾向も見られた。次年度は、今年度に引き続き「宇都宮モデル」の授業づくりを基本とした授業改善に取り組む。授業では、実生活に結び付けた課題を提示するなど工夫し、児童が課題解決への意欲と見通しをもち、試行錯誤しながら課題に取り組めるようにする。また、授業終末の振り返りでは、思考の過程を児童自身の言葉で論述する活動を取り入れることで、自分自身の成長を感じ、学んだ知識・理解の定着を図れるようにする。

・友達との聞き合いや伝え合いなどの学び合いの場を意図的に設定し、様々な情報や知識を共有するとともに、教師のコーディネート力を高め、自分の考えを深めたり、広げたりできるよう教師が促す「学習の個性化」を図る。

・「書くこと」については、市の調査では平均正答率が市の平均を上回ったが、学校全体としては平均正答率が低い傾向が見られた。書くことに慣れさせていくために、国語だけでなく各教科の特質に応じた言語活動の充実を図るなど、書く機会を意図的・継続的に設定していく。

・一人一台端末などのICT機器等をツールとして効果的に活用し、各教科のねらいを踏まえた学習活動の充実をさらに進め、児童が主体的に問題を解決するために、情報を収集したり、整理・比較したりして、共有・発信することで思考を深めることができる授業展開の工夫に努める。

・家庭学習への取組では、「宿題をきちんと提出している」の肯定割合はどの学年も高い傾向があるが、計画を立てて家庭学習に取り組んだり、授業の復習やテストの解き直しに取り組んだりしている児童の割合は低い傾向が見られた。学年の発達段階に応じて、より確かな学力の定着を図れる学習内容を提示したり、A1ドリルを活用して個に応じた課題に取り組めるようしたりする。また、機会を捉えて家庭への啓発を図ったり、家庭学習ががんばり週間を実施したりするなどして、家庭学習の定着と充実に向けて、家庭と連携して取り組んでいく。